

< 雄誉靈巖上人と関連年表 >

西歴	和暦	事 項	齢	参 考
1542	天文 11		-	徳川家康が誕生。父は三河国岡崎の城主松平広忠。菩提寺は浄土宗大樹寺。成人後の家康も熱心な浄土宗信者で、「厭離穢土欣求浄土」の旗印にした。
1554	天文 23	4月8日 駿河国(静岡県)沼津今川家一族土佐守氏勝の三男として誕生。幼名友松。 重原城を攻略した時に父子3人が討死。	1	甲相駿三国同盟が結ばれる。 5月 今川勢は重原城を攻略。
1560	永禄 3		7	5月19日 桶狭間の戦い。
1564	永禄 7	2月15日 沼津乗運寺増誉につき得度。肇叡と命名。	11	大巖寺開山の道誉貞把、安誉虎角に戒脈を授ける。
1567	永禄 10		14	道誉、安誉に璽書を授ける。
1568	永禄 11	大巖寺(千葉市)道誉貞把の入門し、靈巖と改名。	15	
	永禄 ～天正			道誉、下総国臼井(佐倉)の新大巖寺(長源寺)に隠居。
1573	天正 1		20	安誉のもとで修学した僧侶に、雄誉の9歳上で、後に金戒光明寺26世となる琴誉盛林がいた。
1574	天正 2	貞把より五重・宗脈を相承。	21	12月6日 貞把遷化。安誉虎角が大巖寺2世に。家康、安誉に帰依。
1577	天正 5		24	原胤栄より「禁制」(大巖寺蔵)をもらう。 安誉のもとで修学した僧侶に、雄誉の8歳下で後に知恩院29世となる満誉尊照がいた。
1579	天正 7	安誉より戒脈を相承。	26	
1584	天正 12		31	源誉存応、増上寺12世に。
1587	天正 15	6月 安誉より「璽書」(大巖寺蔵)を授かる。 8月 雄誉、大巖寺3世となる。	34	
1588	天正 16	10月15日 源誉随流に「璽書」(大巖寺蔵)を授与。	35	1月 安誉「別時念仏法度」(大巖寺蔵)を制定。 秀吉、海賊停止令。
1590	天正 18	冬、江戸城内の法門にて争論。大巖寺を辞し、東海道へ旅立つ。	37	7月 家康、大巖寺の寺領を安堵。 8月 家康、関東入国。 11月 朝鮮通信使、秀吉と謁見。
1591	天正 19	南都(奈良)に 永亀山肇叡寺靈巖院を創建。	38	秀吉、戦争準備。
1592	文禄元	山城宇治(京都府宇治市)に称故寺(専修院)、滝鼻(相楽郡精華町)に西光寺を建立。	39	朝鮮侵略:文禄の役(壬辰倭乱)～1593
1593	文禄 2	2月15日 伏見城にて家康より大巖寺3世の再住を命じられる。大巖寺に戻り、改築着工。字を松風。	40	2月4日 安誉遷化。 2月頃 浜松で念仏三毒滅不滅論争起こる。
1595	文禄 4	「厄除の法像」(雄松院蔵)を描かせる。 上総姉崎村(市原)最頂寺を中興。	42	満誉尊照(34歳)、知恩院29世となる。
1596	慶長 1		43	和議を求めて、秀吉に朝鮮通信使来朝。
1597	慶長 2	増上寺12世 源誉存応が主張する念仏三毒滅論の勝利。不滅論僧侶8人追放。この頃雄誉も不滅論者として連座して大巖寺を隠退した可能性がある。	44	朝鮮出兵:慶長の役(丁酉倭乱)～1598 カン・ハン(姜沆)、藤堂高虎水軍に捕えられ、伊予大洲に連行。 9月 知恩院満誉、家康の内意を得て「関東諸寺家掟之事」五箇条制定。この頃、困窮した民衆に日蓮宗不受不施派が広がる。
1598	慶長 3		45	藤堂高虎帰国し、カン・ハンらを京都伏見に幽閉。近世儒学の祖藤原惺窩(相国寺禅僧)との交流。 8月 秀吉没す。朝鮮侵略終結。

< 雄誉霊巖上人と関連年表 >

1599	慶長 4	1月「置文」(大巖寺蔵)を書く。 大巖寺住職として家康に天下和順の法問を勤める。 9月 念誉廓無に「璽書」(雄松院蔵)を授与。	46	
1600	慶長 5		47	8月伏見城攻防戦(関ヶ原の前哨戦)で佐貫藩主内藤家長らが戦死。長男政長が家督相続(後に雄誉に帰依し善昌寺を開基)。 9月 関ヶ原の戦い。 里見義康、徳川秀忠に従い宇都宮に出陣。 源誉随流、大巖寺 4 世となる。
1601	慶長 6	家康の御前法問。	48	
1602	慶長 7	家康、増上寺源誉存応に命じ関東に檀林 18ヶ所を定める。	49	12月 家康、対馬藩主宗義智に命じ、朝鮮との修交計画。
1603	慶長 8	大巖寺落慶。寿像作成。 大巖寺を出寺し、伊豆大島・安房を巡教。 安房国主里見義康の帰依により、大網一村(館山)を与えられ、大巖院を創建。入仏供養。	50	2月、家康、征夷大將軍となり、幕府を開く。 11月16日、里見義康没する。 梅鶴丸(忠義)10歳で家督相続。
1604	慶長 9		51	6月 江戸城の大増築。
1605	慶長 10	朝鮮被虜人の宗巖、知恩院 29 世満誉尊照より剃髪出家し、浄土宗僧侶となって諸国を巡る。その後金戒光明寺西雲院開基。	52	2月 家康、伏見城で朝鮮使節の僧ユ・ジョン(惟政・松雲大師)らと会談、その人柄に感銘し、国交回復の契機となり、被虜人千数百の帰国も実現。ユ・ジョンは浄土信仰に近い僧侶であったという。 4月 家康、將軍職を秀忠に譲り、大御所に。駿府で外交・通商、宗教対策、豊臣討伐計画などの大御所政治をおこなう。
1606	慶長 11		53	大巖寺で木活字を用いた浄土宗典籍(生実版)の印刷が始まる。 9月 江戸城の改築完成し、將軍秀忠が本丸に移る。
1607	慶長 12	11月 大巖院「寿像」像内に銘文を記す。 12月 檀誉に「璽書」(雄松院蔵)を授与。	54	4月 江戸城の天守台を里見氏らが修築。 5月 第1回慶長度朝鮮通信使(回答兼刷還使)、江戸馬喰町の浄土宗本誓寺(塔頭 16 院)が宿舎。將軍秀忠と謁見。帰途、駿河で家康と会見。
1608	慶長 13	上総国五井(市原)領主の松平家信の帰依により理安寺(後の守永寺)を開創。 11月 受戒夫妻像(大巖院蔵)像内銘。	55	
1609	慶長 14	8月 近藤九郎右衛門尉、大巖院「寺号扁額」を寄進。 上総佐貫藩主内藤政長、雄誉を善昌寺住職に懇請。	56	4月 朝鮮と貿易条約(己酉約条)。
1610	慶長 15	3月 里見忠義に円頓戒を授ける。42 石の朱印をもって大巖院寺領とする。 琴誉盛林(65 歳)、金戒光明寺 26 世となる。かつて雄誉と同じ念仏三毒不滅論を唱えていた。	57	
1611	慶長 16		58	里見忠義、大久保忠隣の長子忠常の娘と婚儀。忠常の妻は家康の長女亀姫。
1612	慶長 17	9歳の少年僧(後の源誉霊碩)が雄誉に随従(知恩院入山の 1629 年まで 18 年間)。	59	2月 キリシタンをめぐる岡村大八事件が起きる。幕閣の対立激化。 駿府の旗本や侍女の間にはキリシタンの存在発覚。8月 キリシタン禁令。
1613	慶長 18	10月 上総佐貫藩主内藤政長の帰依を得て、佐貫(富津市)善昌寺に転住。	60	12月 バテレン(宣教師)追放令。

< 雄誉靈巖上人と関連年表 >

1614	慶長 19		61	9月 里見氏改易。伯耆国倉吉へ移封。 佐貫藩主内藤政長、里見氏館山城請け取りに派遣され、城破却と近辺の守備に。 11月 大坂冬の陣。 木更津村の水主らが戦功で幕府から内湾水運の諸特権を得たと伝えられる。
1615	元和1	上総国湊(富津)に湊濟寺創建。 小糸(君津)に三経寺中興。 8月 宗祖法然の靈場巡拝(西国巡礼)に旅立つ。	62	4月 大坂夏の陣。 (家康の本陣は浄土宗一心寺) 7月 源誉存応と満誉尊照が協議し、幕府の認可を得て、浄土宗法度發布。
1616	元和 2	里見忠義の改易地、倉吉を訪ねる。 内藤政長を開基として安房国検儀谷(南房総)に大勝院を開く。(浄土宗寺院由緒書では元和元年) 下総国生実(千葉)に大覚寺建立。(一説に寛永元年)	63	4月17日 家康没する(75歳)。 行政組織、江戸城秀忠に一元化で、駿河より家臣団が江戸に移住し、人口の増加。 潮龍、大巖寺5世となる。 大蓮社心誉宗巖法師と呼ばれた朝鮮人僧侶宗巖、金戒光明寺に西雲院開基。
1617	元和 3		64	8月 第2回元和度朝鮮通信使(回答兼刷還使)。将軍秀忠、伏見で謁見。
1618	元和 4	京都に到着し、知恩院 29 世満誉と対面。	65	
1619	元和 5	宗祖法然の靈場巡拝を終え、佐貫に到着。(約4年間) 春、安房国保田(鋸南)に別願院創建(浄土宗寺院由緒書では元和3年)	66	菱垣廻船制度はじまり、江戸への流通増大。
1620	元和 6	7月「孟蘭盆会祭文」(雄松院蔵)を書く。 伊勢靈巖寺を起立(伝記では法然の靈場巡拝時)。 この頃、安房の檀那・堀庄兵衛が雄誉の江戸布教の拠点をさがし、向井将監忠勝より沼地を譲り受けた。	67	11月2日 増上寺存応遷化。 将軍秀忠、江戸城普請の石材3万個調達を江戸町人に命じる。
1621	元和 7	秋、江戸に靈巖寺仮堂建つ。	68	
1622	元和 8	2代秀忠、および家光にお目見え。 下総国千田の称念寺(長南町)中興。	69	幕府、新寺建立と私に寺院号を称することを禁止。 6月 里見忠義没する(29歳)。 8月 長崎で「元和の大殉教」宣教師処刑。 9月 内藤政長岩城平へ転封に伴い、善昌寺も移転。
1623	元和 9		70	7月 秀忠、将軍職を家光に譲り、大御所に。 10月 家光のキリシタン禁制、弾圧強化。
1624	元和 10 2月 30日 寛永元	2月 大巖院『釈浄土二蔵義』版木刻銘。 2月 大巖院「石灯籠」建立。 3月 大巖院「四面石塔」建立。 江戸に靈岸島を築き、靈巖寺を建立。	71	12月 第3回寛永度朝鮮通信使(回答兼刷還使)。江戸馬喰町浄土宗本誓寺が宿舍。 弟子の光誉、大戸に大円寺(館山市)開創。 弟子の伝誉、保田に遣水寺(鋸南町)開創。
1626	寛永 3	雄松院「九品来迎引接石」建立。	73	
1627	寛永 4	江戸城西の丸で、大御所秀忠に御前法問。	74	
1628	寛永 5	靈岸島を埋立て、諸堂宇建設はじまる。	75	この頃よりキリシタン摘発に「絵踏」。
1629	寛永 6	江戸靈巖寺本堂、諸堂落慶。 6月 総本山知恩院 32 世を任命。 10月 知恩院入山。 1611年から随従していた弟子の靈碩(38歳)と離れる。	76	
1630	寛永 7	秋、『釈浄土二蔵義』を刊行。	77	
1631	寛永 8	姫路藩主本多忠政(8月10日没)の葬儀導師を勤める。岡山に靈巖寺を開く。 高槻藩主松平家信の願いで江戸下谷英信寺を開基。 この頃宣旨により仙洞御所の後水尾法皇に説法。 10月26日 院宣により明正天皇に説法。	78	4月17日 淀藩主松平定綱、知恩院御影堂石水鉢を寄進。
1632	寛永 9	鎮守堂再興。 秋、『釈浄土二蔵義』を覆刻刊行。	79	1月24日 秀忠没する。

< 雄誉霊巖上人と関連年表 >

1633	寛永 10	1月9日 知恩院の諸堂焼失。 6月7日 意天に「璽書」(延命院蔵)を授与。 6月 大巖院に「釈迦涅槃図」を寄附。 松平定綱の室、智相院の導師を勤める。	80	
1636	寛永 13	9月15日 知恩院の大鐘が完成。 雄誉の伝記に、朝鮮人一行が大巖院を訪れたとの記載がある。	83	12月 第4回寛永度朝鮮通信使、日光東照宮参拝・梵鐘寄贈。
1638	寛永 15	知恩院の諸堂造営成就。	85	
1639	寛永 16	1月19日より落慶大法要。 3月15日 『選択集』(佛敎大学図書館蔵)を刊行。	86	
1640	寛永 17	『浄土三部経』・『選択集』・『頌義』などを開板。	87	
1641	寛永 18	春、落慶御礼のため関東へ下向。 6月14日、上意により登城し法談。 6月15日、珂山に「璽書」(延命院蔵)を授与。 9月1日、江戸霊巖寺にて没する。	88	
1657	明暦 3	江戸明暦の大火で霊巖寺焼失。		
1670	寛文 10	江戸霊巖寺、深川に移転し再建。 竹岡・松翁院の遵誉、ハンゲル四面石塔建立。		
1683	天和 3	霊碩編『霊巖和尚伝記』3巻を作成。		(没後 43年)
1833	天保 4	存統編『道本開山雄誉上人伝記』4巻を刊行。		(没後 193年)
1859	安政 6	教遵編『霊巖上人略伝』1巻を刊行。		(没後 219年)
1969	昭和 44	「四面石塔」が千葉県有形文化財に指定。		
1970	昭和 45	韓国人の朴春錫氏(東京大学大学院)が「四面石塔」調査論文発表。大巖院 20世石川龍音が顕彰碑建立。		
1992	平成 4	愛沢「四面石塔」の教材研究と授業実践を開始。		
1995	平成 7	愛沢「四面石塔」の教育実践を『房総史学』発表。		
2001	平成 13	日韓教育交流会(韓国ソウル・晋州)		
2002	平成 14	日韓歴史交流シンポジウム「ハンゲル四面石塔」(館山) 日韓歴史教育交流会(館山)		
2005	平成 17	日韓子ども交流(館山)		
2006	平成 18	済州島大学校・趙誠倫教授のまちづくり視察来訪(館山)		
2007	平成 19	日本船「快鷹丸」遭難 100年記念交流(韓国浦項)		
2009	平成 21	済州道戦跡調査団視察来訪(館山) 平和博物館の教育研究会・まちづくり交流(韓国ソウル・仁川) 東京大学院留学生・鄭一止(チョンイルジ)氏博士論文調査(館山)		
2010	平成 22	第9回中韓青少年歴史体験キャンプ(館山・南房総)		
2011	平成 23	韓国釜山・慶星大学カン・ドンジン教授 視察(館山)		
2012	平成 24	駐日韓国大使館視察(館山)		
2013	平成 25	韓国文化体育観光部・文化観光研究院視察(館山)		
2014	平成 26	韓国水原ルネサンスセンター来訪交流(館山市) 韓国オルティナブルスクール視察(館山)		
2016	平成 28	第19回戦争遺跡保存全国シンポジウム館山大会講演:光州市立美術館名誉館長河正雄氏 青木繁「海の幸」ブロンズ除幕式(館山・久留米/韓国ソウル・光州・霊巖) エコミュージアムフォーラム(韓国京畿道) 韓国道大学校・趙誠倫教授と日本軍戦跡調査(韓国済州) 在日済州道民協会顧問・李徳雄氏と視察交流(韓国済州) 東京韓国学校 100名・スタディツアー来訪(館山) 韓国始興市バラジエコミュージアム団 視察(館山)		
2017	平成 29	在日コリアン・マイノリティ人権研究センター スタディツアー(館山) 韓国 OBS テレビ取材放映「館山まるごと博物館」(館山) 韓国 MBC テレビ取材放映「房総の済州海女」(南房総)		
2023	令和 5	在日韓国民団大田支部 スタディツアー(館山)		
2024	令和 6	在日韓国民団大田支部・金文子氏より大巖院に 蓮華アートフラワー奉納 韓国国外所在文化財財団 視察調査来日 ハンゲル「四面石塔」400年記念コンサート&シンポジウム(館山)		